

令和7年度(令和6年度実施事業分)主要事業評価シート					No.	33-1		
PDCA	主要事業名	図書館一般事務	部課名	教育部図書館	担当	太田		
					内線	23-7171		
P 総合計画との関係性と予算根拠	総合計画： 1 - 2 - 1 単位施策： 学びの推進					予算見積書で活用		
	全体事業期間： 令和 6 年度 ~ 6 年度 全体事業費等： 7,655 千円							
	会計 一般会計 歳出科目： 09.05.03.02.01							
	事業概要等	事業概要： 年齢や障がいの有無、国籍などにかかわらず、誰もが本に触れ、情報を得、読書を楽しめる環境づくりを進める。乳幼児期から発達段階に応じた読書支援や障がい者、高齢者へのサービス提供を実施する。						
		事業目的： より多くの方に図書館及び図書館資料を利用してもらい、読書活動を推進する。						
		事業内容： あかちゃんとしよかんを始めとした乳幼児期からの読書支援、学校支援事業（ブックトーク、調べ学習お届け便など）、高齢者及び障がい者への読書支援、各種講座・イベントの開催。						
		問題点・課題等： 生活環境の変化などにより活字離れが進んでおり、乳幼児期からの継続的な読書支援が必要である。また、利用者のニーズにあったサービス提供が必要である。						
	予算額	主要事業とする理由						
	7,655 千円	子どもの活字離れが進んでおり、その読書活動を推進する必要があることと、図書館と図書館資料の利用促進を幅広く行う必要があるため。						
	財源内訳	得られる成果						
市費	子どもの読書活動推進と図書館及び図書館資料の利用推進につながる。							
7,167 千円								
国費								
0 千円								
県費								
0 千円								
その他								
488 千円								
D 実績 得られた成果と	決算額	得られた成果					主要施策の成果報告書で活用	
	7,504 千円	令和6年度はこれまでの取り組みに加え、開館40周年記念イベント「間瀬なおかた絵本原画展」を開催。出身地域である亀崎地区にある保育園幼稚園等を訪問して絵本の読み聞かせを実施するなど、図書館の利用促進につながることができた。						
	成果指標					令和6年度		単位
	図書館事業参加者数		実績値	11,616	人			
			目標値	7,500	人			
C 課題の整理	事業の評価・課題	A 乳幼児期からの継続的な読書支援のため、三か月児健診時に貸出券を作り、図書を貸し出す取り組み「あかちゃんとしよかん」や、小学校1年生への貸出券作成案内、小中学生への電子図書館のID配布等を継続して実施し、図書館利用のきっかけ作りに努めた。各種講座やイベントは、内容を見直し実施したものの、定員を割るものもあったため、継続して見直しを実施していく必要がある。						
	今後の事業の方向性	改善推進 知識の拠点として誰もが本に触れ、情報を得ることができる図書館とすべく、機能や運営の方針となる「図書館運営基本計画」を策定し、利用者サービスをより充実させる。						
A 課題の方向性	観点別評価	必要性		有効性		効率性		
		①市の関与の妥当性	妥当	④上位施策への貢献	中程度	⑦コスト削減余地	ない	
		②市民ニーズ	高い	⑤成果向上の余地	ある	⑧受益者負担適正化余地	ない	
		③休廃止の影響	大きい	⑥類似事業の有無	ない			

目標項目（予算計上時に作成）

評価項目（決算時に作成）

令和7年度(令和6年度実施事業分)主要事業評価シート

No. 33-2

PDCA	主要事業名	図書館資料整備事業	部課名	教育部図書館	担当 内線	竹内 23-7171
------	-------	-----------	-----	--------	----------	---------------

P

総合計画との関係性と予算根拠

総合計画： 1 - 2 - 1 単位施策： 学びの推進

全体事業期間： 令和 6 年度 ~ 6 年度 全体事業費等： 33,295 千円

会計 一般会計 歳出科目： 09.05.03.02.02

事業概要等

事業概要： 利用者のニーズに合った図書資料を幅広く整備するとともに、地域情報の集約場所としての機能を維持し、魅力ある図書館づくりを行う。また、子ども読書活動推進計画に基づき、電子書籍を含む児童書の充実を図るとともに、市内小中学校との連携を進める。障がいのある方や高齢者、外国籍の市民等にも配慮した資料の収集や、電子書籍の利用拡大など、読書の機会拡充に努める。

事業目的： 幅広い年齢層の利用者にとっての魅力ある図書館資料及び電子書籍を充実させ情報提供に努めることで、市民の学びを支える。

事業内容： 一般図書、児童図書、視聴覚資料、新聞、電子書籍などについて、司書が内容を確認し購入する。

問題点・課題等： コロナ禍以降、回復の兆しを見せてはいるものの、図書館利用者数、貸出点数などが減少傾向にある。

予算額

33,295 千円

財源内訳

市費 32,071 千円
国費 0 千円
県費 0 千円
その他 1,224 千円

主要事業とする理由

公共図書館として、市民の知的好奇心を満たし、生涯を通して学び続けられるよう、ニーズにあった幅広い図書資料を整備する必要があるため。また、電子書籍充実により、新たな読書形態の提供・浸透に努める必要がある。

得られる成果

より多くの市民の学びの支えとなる。

目標値や目指すべき状態	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位
市民一人当たりの貸出点数（図書）	実績値 7.0	7.0	—	冊
	目標値 7.5	7.5	7.0	冊
電子書籍貸出冊数	実績値 6,933	25,724	—	冊
	目標値 —	18,000	30,000	冊
	実績値			
	目標値			

D

実績値
得られた成果と

決算額

33,289 千円

得られた成果

新刊購入の際には市民のリクエストに配慮したほか、子どもの読書推進を目指した児童書の充実・地域の特色を活かした資料の収集・大活字本の購入等、市民の学びや課題解決に寄与した。また、電子書籍については、特に学校利用を視野に入れた資料選定をし、若年層への新しい読書習慣定着の支援をすることができた。

成果指標	令和6年度	単位
市民一人当たりの貸出点数（図書）	実績値 6.8	冊
	目標値 7.0	冊
電子書籍貸出冊数	実績値 38,517	冊
	目標値 30,000	冊

C

課題の整理

事業の評価・課題

A

新刊購入を中心に、乳幼児向け絵本・高齢者向けの大活字本や紙芝居・児童生徒向けの多言語資料等の充実にも努める等、世代や国籍にとらわれない、あらゆる市民に配慮した資料収集を行った。また、電子図書館については、学校での複数利用に応えられる読み放題資料の提供を継続し、新しい読書習慣の定着に寄与した。今後の課題として、利用の少ない高校生や、働き盛りの世代、外国にルーツを持つ人が気軽に図書館を利用できるよう、サービス提供のあり方の見直し・改善、積極的な情報提供を行う必要がある。

A

課題の解決に向けた今後

今後の事業の方向性

改善推進

暮らしや仕事、地域の課題を解決する「知識の発信基地」として、資料の充実を図るとともに、非来館でも図書館サービスを受けられるよう、登録や利用の形を考え、より多くの市民に必要とされる施設を目指す。図書館の機能や運営の方針となる「図書館運営基本計画」を策定し、世代や障がいの有無、国籍に影響されない学びの支えとなれるよう、資料の提供や読書環境の整備を行っていく。

必要性	有効性	効率性
①市の関与の妥当性 妥当	④上位施策への貢献 中程度	⑦コスト削減 減余地
②市民ニーズ 高い	⑤成果向上の余地 ある	⑧受益者負担適正化余地
③休廃止の影響 大きい	⑥類似事業の有無 ない	ない

予算見積書で活用

主要施策の成果報告書で活用

目標項目（予算計上時に作成）

評価項目（決算時に作成）

令和7年度(令和6年度実施事業分)主要事業評価シート					No.	33-3
PDCA	主要事業名	地域資料等デジタル化事業	部課名	教育部図書館	担当	田村
					内線	23-7171

総合計画との関係性と予算根拠

P

総合計画： 1 - 2 - 1 単位施策： 学びの推進			目標項目（予算計上時に作成）
全体事業期間： 令和 6 年度 ～ 6 年度 全体事業費等： 1,681 千円			
会計 一般会計		歳出科目： 09.05.03.02.50	
事業概要等	事業概要： 所蔵資料（特に郷土資料）をスキャニングし、デジタル化を行い、令和7年度にはんだ電子図書館上にデジタル化資料を公開する。		
	事業目的： 原資料の代替としてデジタル化資料を公開することで、原資料の保存及び利用者の利便性を高める。		
	事業内容： 所蔵資料（特に郷土資料）のスキャニングを委託する。		
	問題点・ 公開後、多くの方に関覧してもらえるようPRをすることや、資料を探しやす課題等： いようカテゴリーを作るなどホームページのレイアウトに工夫が必要。		
予算額	主要事業とする理由		
1,681 千円	利用者が郷土資料を閲覧したい場合、多くの資料は、貸出ができないことから、事務室内での閲覧のみとなる。デジタル化することにより、来館せずともデジタル資料の閲覧が可能になり、郷土研究推進・原資料の保存につながる。		
財源内訳			
市費	得られる成果		
1,681 千円	資料保存及び郷土研究の推進。		
国費	目標値や目指すべき状態		
0 千円	資料のスキャニング、公開準備が完了すること		
県費			
0 千円			
その他			
0 千円			

D 実績 得られた成果と 価値	決算額 768 千円	得られた成果				主要施策の 成果報告書で活用	評価項目（決算時に作成）	
		資料のスキャニングが完了し、半田市の貴重な地域資料の永久的な資料保存が可能となり、電子図書館上での公開の準備ができた。						
		成果指標						
	資料のスキャニング、公開準備が完了すること							
C 課題 課題の整理	事業の 評価・課題	A						
		所蔵資料の保存と郷土研究の推進のため、特に郷土資料を中心に歴史的価値のある83点の原資料のデジタル化を実施し、公開準備を行うことができた。今後は、遠隔での半田市のPRができるよう、電子図書館上での効果的な公開をいかに行っていくかが課題である。						
A 課題 課題の解決に向けた今後の 方向性	今後の事業 の方向性	終了						
		今後も、デジタル化をすべき資料の優先順位を明確にし、必要に応じ資料保存のため、デジタル化を行う。 令和7年度にデジタル化した資料をはんだ電子図書館上で公開するが、電子図書館上のみならず、図書館で実際の資料を展示するなどし、貴重資料をWEB上で多くの人が気軽に利用することができることをPRしていく。						
	観点別評価	必要性		有効性			効率性	
		①市の関与の妥当性	妥当	④上位施策への貢献	中程度		⑦コスト削減余地	ない
		②市民ニーズ	高い	⑤成果向上の余地	ある			
③休廃止の影響		小さい	⑥類似事業の有無	ない	⑧受益者負担適正化余地	ない		

令和7年度(令和6年度実施事業分) 主要事業評価各課総括表・2次評価表

2次評価者

教育部図書館

教育部長 森田 知幸

整理No	主要事業名	事業の評価・課題		今後の事業の方向性	
		自己評価	評価内容	方向性	内容
33-1	図書館一般事務	A	乳幼児期からの継続的な読書支援のため、三か月児健診時に貸出券を作り、図書を貸し出す取り組み「あかちゃんとしょかん」や、小学校1年生への貸出券作成案内、小中学生への電子図書館のID配布等を継続して実施し、図書館利用のきっかけ作りに努めた。各種講座やイベントは、内容を見直し実施したものの、定員を割るものもあったため、継続して見直しを実施していく必要がある。	改善推進	知識の拠点として誰もが本に触れ、情報を得ることができる図書館とすべく、機能や運営の方針となる「図書館運営基本計画」を策定し、利用者サービスをより充実させる。
33-2	図書館資料整備事業	A	新刊購入を中心に、乳幼児向け絵本・高齢者向けの大活字本や紙芝居・児童生徒向けの多言語資料等の充実に努める等、世代や国籍にとらわれない、あらゆる市民に配慮した資料収集を行った。また、電子図書館については、学校での複数利用に応えられる読み放題資料の提供を継続し、新しい読書習慣の定着に寄与した。 今後の課題として、利用の少ない高校生や、働き盛りの世代、外国にルーツを持つ人が気軽に図書館を利用できるよう、サービス提供のあり方の見直し・改善、積極的な情報提供を行う必要がある。	改善推進	暮らしや仕事、地域の課題を解決する「知識の発信基地」として、資料の充実を図るとともに、非来館でも図書館サービスを受けられるよう、登録や利用の形を考え、より多くの市民に必要とされる施設を目指す。 図書館の機能や運営の方針となる「図書館運営基本計画」を策定し、世代や障がいの有無、国籍に影響されない学びの支えとなれるよう、資料の提供や読書環境の整備を行っていく。
33-3	地域資料等デジタル化事業	A	所蔵資料の保存と郷土研究の推進のため、特に郷土資料を中心に歴史的価値のある83点の原資料のデジタル化を実施し、公開準備を行うことができた。今後は、遠隔での半田市のPRができるよう、電子図書館上での効果的な公開をいかに行っていくかが課題である。	終了	今後も、デジタル化をすべき資料の優先順位を明確にし、必要に応じ資料保存のため、デジタル化を行う。 令和7年度にデジタル化した資料をはんだ電子図書館上で公開するが、電子図書館上のみならず、図書館で実際の資料を展示するなどし、貴重資料をWEB上で多くの人々が気軽に利用することができることをPRしていく。
課等長	1次評価（令和6年度の総括評価）				
A	新刊購入を中心にあらゆる市民に配慮した資料収集を行ったにも関わらず、貸出件数は若干の減少がみられたことは残念だが、電子書籍の読み放題資料の提供等の充実により、電子書籍の貸出冊数の目標値を大きく上回ることができた。 図書館利用の推進のため、乳幼児期からの継続的な読書支援や、各種イベント等の実施により、図書館事業参加者数も目標値を大きく上回ったことは、十分な事業効果を得られたと判断できる。 また、地域資料等デジタル化事業を実施し、半田市の貴重な地域資料の永久的な保存ができたこともよかった。				
部等長	2次評価（令和6年度の総括評価並びに今後の方針及び指示事項）				
B	一部、目標値に届かない数値もあるものの、事業参加者数の大幅な伸びに示されたように、より市民が求める行事や講座を行うことで、知識や情報の発信基地としての図書館のPRに努めてほしい。また、数字には表れにくい、あかちゃんとしょかんや学校支援事業など、これからの半田市を支えていってくれる子どもたちへの読書支援を継続して行い、地域教育の底上げにも寄与してもらいたい。 電子書籍の利用が増加しているが、今後は、紙の資料やデジタル化した資料の利活用を含め、より読書に親しみやすい環境を整えることを目標に、運営基本計画を定め、時代にあわせたICTサービスの提供や、年齢・国籍等に左右されない誰もが利用しやすい図書館整備に努めてほしい。				